

漢文句法「限定」確認テスト（唯・特・但・耳） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

解答・解説

問1 ただ／「唯」は「たダ」と読み、「ただ～だけ」と範囲を限定する。

問2 「ただ～だけ」という限定。「唯（たダ）～のみ」で「ただ～だけが」の意となり、ここでは「仁者だけが」と限る。

問3 ただ仁者のみ能く人を愛す。

問4 ただ仁の心を持つ者だけが、本当に人を愛することができる。

問5 ひとり／「独」は「ひとり」と読み、「ただひとり～だけ」と限定する。

問6 ただ／「但」も「たダ」と読み、限定を表す。

問7 ただ人語の響くを聞く。

問8 ただ人の話し声が（こだまして）響くのだけが聞こえる。

問9 ただ／「特」も「たダ」と読み、「ただ～だけ」「ただ～にすぎない」の意。

問10 文頭の「特（ただ）」が「ただ～にすぎない」と限り、文末の「耳（のみ）」が「～だけだ」と念を押すことで、「ただ口先だけのことにすぎない」と限定の意味がいつそう強まる。

問11 のみ／文末の「耳」は「のみ」と読み、「～だけだ」の意。

問12 これ口腹を養ふのみ。

問13 これはただ腹を満たす（食欲を満たす）だけのことだ。

問14 のみ／「而已矣」も「のみ」と読み、「而已」をさらに強めた言い方。

問15 ただ／「惟」は「唯」と同じく「たダ」と読む。

問16 ただ君のみこれを知る。

問17 いたずらに／「徒」は「いたづ（らに）」と読み、「ただ～だけ・むなしく～だけ」の意で限定を表す。

問18 のみ／文末の「而已」は「のみ」と読む。

問19 ただ読むだけだ。（むなしく読んでいるだけだ。）

問20 イ・エ（耳・而已）。「唯・但・独」は文頭で「たダ」と読む限定の字で、文末には置かない。

問21 (1) 唯・独（但・特・惟・徒なども可） (2) 耳・而已（而已矣も可）。

問22 「而已」は「而（しかして）」＋「已（やむ・おわる）」で、「そうしてそれで終わりだ＝それ以上はない」という意味から、「ただ～だけだ（～のみ）」の限定の意になった。

問23 文頭で「たダ」と限り、文末で「のみ」と受けることで、上と下から範囲を挟みこみ、「ただ～だけだ」という限定の意味を強調する効果がある。